

〔倭訓栞前編十三〕せき 關をよめり、倭名鈔にせきと、よめり、關門の義也、眞名伊勢物語に塞もよめり、人を防ぎ留むるの義、劔も訓同じ、伊呂波字類抄に見ゆ、日本紀略に相坂劔と書せり、史記に、蜀劔道、正字通に劔俗作、劔といふ是也、○中略 諸國關多しといへども、専ら關といふは、相坂を指といへり、關所は關寺のあたりといふ、○下略

〔類聚名物考地理五〕關戸 せきのと 關扉

關のとざしとも、關のとぼそともいへり、連歌の家には、關の岩かどをも、門と角との兩意有るよしに定めたり、

〔伊勢參宮名所圖會〕逢坂關舊跡 〔中略昔の關はかならず國境に置て是を關戸關津といへり、

〔源公忠朝臣集〕近江守にてくだるに、貫之が許よりおこせたりける歌ふたつかへし、

關の戸ぞおどろかれける君がため心とぐめぬ時のなければ

〔續千載和歌集秋四〕關月を

秋の夜は關の戸ぞしもゆるさなむ行とまるべき月の影かは

權中納言爲藤

〔類聚名物考地理五〕關山 せきやま 非名所

關門の有る所のほとりの往來の道を、いづかたにてもいふなり、相坂にも足柄にもよめるにて知るべし、關路せきの戸など云ふ、みなこの類ひなり、

〔馬内侍集〕返しはせでまばし有て、いし山へまうづとき、て、

逢坂のせき山こゆるけふさへやなをやなみだの盡せざるらん

〔類聚名物考地理五〕關路 せきち せきみち

冷泉爲久卿、古本の假名せきのみちなり、當時はせきじといふとの、給ひつれども、後撰集に、不破のせきじと訓り、